

ご案内 第2回愛航研究会

間に合わなかった

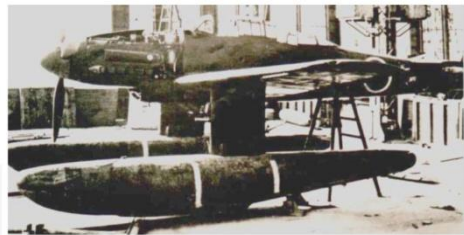
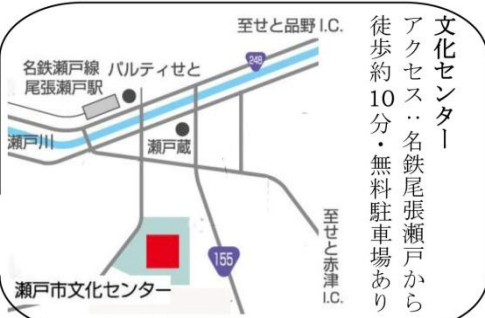
お待たせしました！3年ぶりの開催です！

第2回愛航研究会

「パナマ運河攻撃機・晴嵐 28号機修復の全貌」

講師：愛知航空機研究家・渡辺哲国氏
 日時：令和5年6月11日・日曜日、13時半～16時半
 募集人員：24名 *事前予約制（下記の連絡先まで）
 参加料：500円 会場：瀬戸市文化センター

12会議室



内容

- 1) 「晴嵐」学習会の復習（開発・生産・他）
- 2) 海路米国へ（永徳→追浜→パナマ運河→東海岸）
- 3) PEGFでの保管
- 4) 修復に着手
- 5) 胴体 & アツタ 32
- 6) 主翼 & ガソリンタンク
- 7) 動翼 & 尾翼
- 8) 浮舟（フロート）
- 9) 二式 13mm 旋回機銃、他
- 10) 折畳展張部
- 11) 風房
- 12) 操縦席
- 13) 偵察席
- 14) その他
- 15) 塗装
- 16) 組立
- 17) 完成
- 18) Seiran Family & Friends

当日ご参加の方全員に晴嵐修復機の操縦席計器盤の写真（はがきサイズ）を贈呈します！



瀬戸地下
 軍需工場
 跡を保存
 する会

会報

NO.175
 2023年
 5月10日

瀬戸市分町04-1
 瀬戸市職労組事務所
 0561-84-4760
 fax 84-4767
 郵便振替口座番号
 00820-9-105120

連絡先
 事務局
 梅野
 090-3837-7050
 寺脇
 0572-23-5899
 fax 同上
 携帯
 090-6575-4370
 Eメール
 tera-m@ob.aitai.ne.jp



申し込みは 右の email か
 電話 0572-23-5899 または 090-6575-4370
 寺脇まで

お詫び

前号 174号の「春の戦跡案内」で肝心の「日時や参加費」を掲載していませんでした。関係の方々にはご迷惑、ご心配をおかけしました。申し訳ありませんでした。

編集者 事務局 寺脇正治

2023年5月9日現在	143名 (+1-0)	春日井市 大里 豊さん 2000円	名古屋市 野田茂生さん 5200円 杉山協子さん 0000円	片山保代さん 2000円 長寄正夫さん 0000円 熊谷達也さん 2000円 加藤敏晴さん 2000円	瀬戸市 2023年度 会費およびカンパを頂いた方 12000円	ありがとうございます ごございました！
-------------	-------------	-------------------------	--	--	--	------------------------

3・26 春の戦跡見学会報告

あなたがB29墜落の目撃者になる！ツアー

1945年 3月25日の空襲概要

米軍発表

作戦任務第45号

- 1.日付 1945年3月24日
- 2.コード名エラディケイト No.5
- 3.目標 名古屋一三菱重工業名古屋発動機製作所
- 4.参加部隊 第73・313・314航空団
- 5.出撃爆撃機数 249機
- 6.攻撃高度 5,800~9,000feet (1800m~2700m)

日本側被害 (「愛知県における空襲の概況」から)
名古屋市内死者 (1617名) 罹災者 35911
犠牲者の数は愛知県下で3番目に多い
8/7 豊川 2845名 ,6/9 2068名

ながらくコロナのために中断していた会の恒例行事である「春の戦跡見学会」は4年ぶりに行いました。今回は開催が3月26日ということもあり、1945 (昭和20年)年3月25日未明の三菱大幸工場を中心とした空襲のうちに墜落した4機のB29の足取りを追うという新しい観点で見学会を催しました。今回、案内したのは会の事務局員でもあり「戦争軌跡研究会」の圓角成生さんこと野田茂生さんです。当時のことを表す遺構はほとんどないものの、当時のことを知ってみえる方に証言していただいたり、見晴台資料館では瑞穂公園付近に落下したB29の機体の一部を見学したり、その空襲で犠牲者を出した守山区の「爆弾坂」を見学したりした中で、戦争がどちらの側にも大きな痛手となった事実を知り改めて戦争の非情さを知った一日でした。(寺脇)

墜落した4機のB29

POW 研究会の資料より ※

※POW (Prisoner of War=戦争捕虜) 研究会はこの埋もれた歴史を掘り起こしていこうと2002年3月に発足、国内外約80人の会員が互いに協力しながら、捕虜・民間人抑留者や戦犯裁判の調査、元捕虜や遺族との交流など様々な活動に取り組んでいる。

① 1945年3月25日午前3時ごろ

春日井郡守山町 (現守山区) 14丁目

B29 (機体番号44-69748、第313航空団9爆撃群所属) が墜落飛行機は高射砲砲弾を受けて空中爆発し、地上に落下して激しく炎上した。機長の Murei W.HARDGRAV 中尉など11人全員死亡、7~8遺体を守山町9丁目成願寺墓地に埋葬。

② 3月25日午前0時半頃

名古屋市昭和区御器所町4丁目

B29 (機体番号42-63526、第73航空団497爆撃群所属) が墜落飛行機は高射砲砲弾を受けて村雲小学校の北側の民家の上に墜落。機長の Paul W.SHAFERATH 中尉など搭乗員11人全員死亡、民家の家族のうち4人も死亡した。日本軍は伊勢神宮が投弾を受けたこともあり、この戦果に喜び、中部軍参謀長の国武中将らが大阪から視察に訪れ、軍の戦果誇示のため、飛行機の残骸と米兵の遺体を公衆の面前にさらし、国防献金を呼びかけた。この間、多くの市民が遺体に暴行を加えた。戦後、米軍が遺体を回収に来た時、市民は恐怖におののいたという。

(現場近くの浄元寺住職 (1928年生まれ) の話)

米兵の遺体は機体の残骸とともに1週間ほど市民の前に晒され、大勢の人が痛めつけた。その間に国防献金を呼びかける4斗樽が置かれ、通行人がお金を寄付していった。その後、米兵の遺体は浄元寺墓地の脇に穴を掘って投げ込まれたが、戦後、米軍対策として、花を飾り墓標を立てて慰霊を装った。

③ 3月25日午前0時半頃 名古屋市瑞穂区弥富町ナカシンデン3丁目

B29 (機体番号42-63210、ニックネーム「FAY」、第73航空団498爆撃群所属) が墜落。飛行機は高射砲砲弾を受けて空中爆発し、機体も遺体もバラバラになった。機長の Floyd C.TOBEY jr. 中尉など11名全員死亡、1遺体のみ発見、他は不明

④ 3月25日午前2時30分頃 愛知郡長久手村 (現長久手町) 字ノダナ

B29 (機体番号42-63493、ニックネーム「STAR DUSTER」、第73航空団499爆撃群所属) が墜落。機長の Charies E.TIMMONS 少尉など10人全員死亡、搭載していた爆弾が爆発したため、

機体も遺体もバラバラになった。警防団によって拾い集められた8人分と推定される遺体を長久手の公共墓地に埋葬。

〔(地元の男性(当時10代)の話)〕

墜落現場は現在の名古屋の地下鉄藤が丘と長久手町の境界付近で当時は田んぼと林だった。抱えていた爆弾が爆発したとのことで、数キロ離れた私の家でもドカーンという大きな爆発音が出て、家の戸がはずれるほどだった。翌朝、工場への出勤途中に現場を見てみると、大きな穴があいていた。日本軍機の体当たり攻撃によって撃墜されたと聞いた。

志段味の「爆弾坂」
3月25日の空襲でこの周辺では12名の犠牲者を出した。



①の墜落現場(旧守山町(現守山区鳥羽見町)機体は屋根をかすめて墜落した。矢印は墜落方向



③の墜落現場(瑞穂区弥富町ナカシンデン3丁目(現・瑞穂運動場)この周辺に落ちた機体の一部が見晴台資料館に展示されている



④の墜落現場長久手村(現長久手市)字ノダナ矢印は墜落方向



見晴台考古資料館の南側にある高射砲台座



見晴台考古資料館の東にある高射砲置場遺構 台座はない



③の墜落現場にあった水平尾翼墜落後見晴台附近に展示していたがGHQの発覚を恐れて埋めていたもの。(見晴台考古資料館)



今回の見学会で私が一番、感激したのは、見学会の案内をかって出してくれた野田さん(圓角成生さん)の事です。野田さんは、瑞陵高校生のとき、この3月25日未明の空襲で被災(幹に焼夷弾の痕跡)し切り倒される運命にあったカシの木を私立保育園に植え替える運動を中心になって行なわれました。(1999年11月7日中日新聞)肝心のカシ木は、その後、枯れてしまったそうですが、「歴史の証人を守ろう」とされた意気込みに感激しました。(寺脇)

瀬戸と周辺の戦跡探訪⑦

雨宮大尉自刃処碑

雨宮文彦

大正13年2月21日
生まれ。

東海野砲兵第3聯隊
補充隊出身。昭和20
年6月に中尉になり、
自刃して後大尉になっ
た。名古屋師管区砲兵
補充隊東海28部隊水
野分駐隊として感応寺
駐屯。



水北町感応寺の裏山にある雨宮大尉自刃処碑
台座はコンクリートで固めてある
左の映像は2012年5月撮影

本土決戦訓練の様。8月11日友人の海軍司令部付の友人平田外夫と敗戦の時に生と死どちらをとるか激論。

平田は「生」をとると。8月15日部隊に「平静只待命」と大書。16日部隊長平野健一郎中佐(6期)の第1期検閲を受け、門前に送り出して姿を消した。頸動脈を斬った刀をぬぐって治めて絶命した。遺族は弟でまだ学徒動員で半田の海軍工廠で働いていた。遺書の意味は「天皇が身を捨てて敗戦を決断、特攻に散った同期生に申し訳ない」という気持ちと。堀山久生は記している。

「散る桜一陸士第5丁期戦没者記録」より

4月13日、瀬戸市水北町の感応寺の凡そ4500m北方の裏山に戦後すぐに建てられた「雨宮大尉自刃処の碑」を確認しに行きました。2012年の瀬戸市戦跡見学会のときは感応寺の東脇にある林道沿いに15分程度で登れたのに、今回は入口が閉鎖されていて(左図③)手前右側の斜面をよじ登って迂回しなければなりませんでした。それに林道は荒れていて、倒木が多く、笹竹が繁茂して大変歩き辛くなっていました。このままでは林道が荒れていくと、戦争の証しが失われてしまいかねません。(寺脇)

感応寺先々代住職 梶田義暢師(故人)

の文から

「戦争もいよいよ終わりに近づいた6月25日午後6時、東瀧第28部隊水野分駐隊112名の兵隊が、分隊長雨宮文彦中尉引率のもとに入つてきて、感応寺は軍部に接収された。

門前には野砲が砲口を並べ、軍馬30頭余が旧小金神社前の広場につなぐが、昼夜の別なく、小金山一帯はまさに実戦地区の感。8月14日の晩は大慰安会、戦時下珍しく楽しい一夜を過ごしたが、15日突如終戦の大詔の玉音放送。

雨宮分駐隊長は模造紙一面に「平静唯待命」と大書して本堂正面に掲示、重々しい声で大詔の主旨を話した。

翌日平野部隊長の第1期検閲を受け、部隊長を門前に送り出して突然姿を消した。兵隊は地元警防団の応援を得て、かなり広く探したが分からなかった。

17日の朝6時、雑木林で軍刀で頸動脈を絶ち自決した隊長が見えられた。軍帽の下に「遥かに東方を押し吾今自決す」との紙片。少し離れてと刀の血を拭いた白いハンカチ。

行年22歳。翌日大尉に昇進、正七位に昇叙。陸軍幼年学校、陸軍士官学校卒の青年将校で遺族のない大尉のために、自刃の場所に、私が自費で石標を建てた。」



石碑の周りは以前と変わらず少し開けている。



林道は人が通らず、イノシシが掘り越しているのと、笹竹が伸び放題。倒木がいたるところで道をふさいでいて大変歩きにくい。



林道は柵で封鎖され、その後ろに倒木が重なり林道の奥が見えない(右)



右図は2012年の見学会の様子(中日新聞)。上図は小金山感応寺。天平六年(734年)に行基が小金山神社を鎮守として創建した由緒ある古刹。俳句寺としても親しまれ門内には多くの句碑がある。石碑はこの寺の先々代住職が建立したものだ。

陶製釣り鐘や軍需工場跡…

終戦の翌日に雑木林の中で自刃した雨宮文彦大尉をまつる碑(手前)を見学する参加者ら＝瀬戸市水北町で

瀬戸の戦跡見学会

瀬戸市内の戦争に関する遺跡などをめぐる「春の戦跡見学会」が十三日、市内で三十二人が参加して開かれた。戦争の悲惨さを後世に残そうと活動する「瀬戸地下軍需工場跡を保存する会」が主催した。

見学会では、供出した金属製の釣り鐘の代わりに作られた珍しい陶製釣り鐘を展示する法雲寺(深川町)や、爆撃機「彗星」の部品を作った愛知航空機瀬戸工場の工場跡(小田妻町・上本町)など八カ所を見学した。

終戦翌日に自刃 軍人の碑も

参加者の矢野浩一郎さん(左)＝陶原町＝は、終戦翌日に感応寺(水北町)近くの雑木林で自刃した雨宮文彦大尉の碑が印象深かったといい、「二十二歳の若さで自刃したことからも純粋な軍人だったんだと思う。瀬戸にこんな碑があったことを初めて知りました」と興味深く見学していた。(水越直哉)

陸軍兵器補給廠 関ヶ原分廠

玉の火薬庫

○火薬貯蔵施設等

進入道路の完成により本格的に火薬庫の建設工事が進められ、軍備の改変、充実等による収容火薬の増大に伴い逐次増設されました。その概要は次のとおりです。

建設年次	施設の名称	棟数
大正 2年(1913) 着工		
大正 5年(1916) 開設	新設 甲種火薬庫(清涼地上火薬庫)	12棟
	新設 乙種火薬庫(清涼半洞窟火薬庫)	15棟
大正 7年(1918)	増設 甲種火薬庫(清涼地上火薬庫)	3棟
	新設 火薬取扱所	1棟
大正 11年(1922)	新設 弾薬集積所	1棟
大正 14年(1925)	新設 乾燥火薬庫	1棟
昭和 4年(1929)	増設 甲種火薬庫(清涼地上火薬庫)	10棟
	新設 乙種火薬庫(清涼本洞窟火薬庫)	5棟
昭和 5年(1930)以降	新設 甲種火薬庫(清涼地上火薬庫)	3棟
昭和 18年(1943)以降	新設 素掘洞窟庫	約150個

○貯蔵施設の最終規模

施設の名称	間口	奥行	高さ	面積	棟数
甲種火薬庫(清涼地上火薬庫)	28.2m	7.5m	4.0m	212㎡(64坪)	28棟
乙種火薬庫(清涼本洞窟火薬庫)	7.5m	24.0m	3.6m	180㎡(54坪)	5棟
乙種火薬庫(清涼半洞窟火薬庫)	7.3m	12.7m	4.1m	93㎡(28坪)	15棟
素掘火薬庫	2.6m	7.3m	2.8m	19㎡(5.7坪)	約150個

※甲種火薬庫・素掘火薬庫の大きさに関しては推定値です。

2017年7月玉区発行

「平和の願い 関ヶ原・玉の火薬庫」より引用

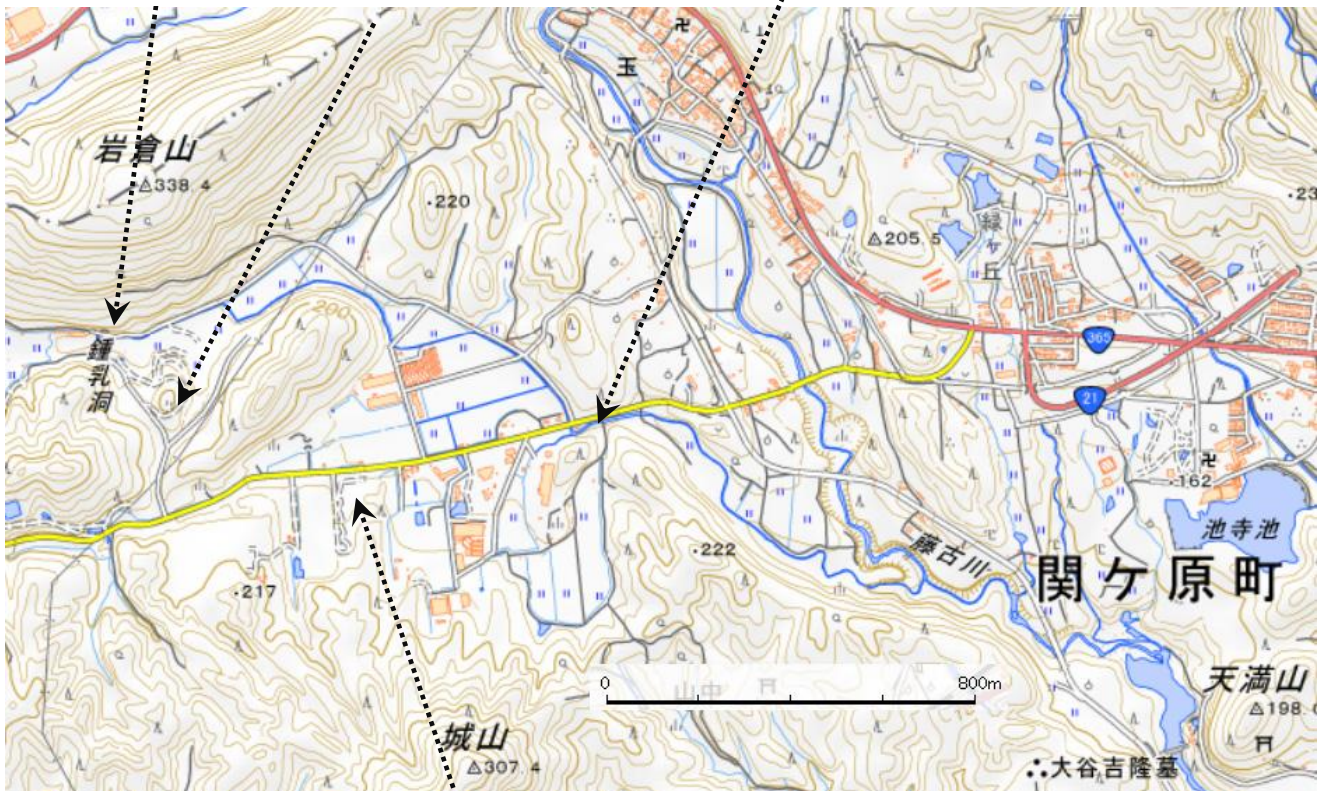
昨年12月にピースあいちで行われた「空襲・戦災を記録する東海交流会」で春日井や豊田・三重の方々から「陸軍兵器補給廠」について取り上げておられました。昨年の8月には戦跡保存ネットワークシンポジウムの前に関ヶ原の火薬庫跡を訪ねていましたので、ここで紹介させていただきます。関ヶ原はご存知の通り、天下の分け目の合戦で有名ですが、それ以外にも、鍾乳洞や伊吹山などでも有名です。火薬庫を中心にした関ヶ原分廠が展開するところは、旧玉村で関ヶ原鍾乳洞を控え、南北に山が迫り火薬庫を設置するには最適な場所であったと思われます。附近には多様な遺構があり、遺跡見学には面白い場所であると思います。

(寺脇)

関ヶ原鍾乳洞

③本洞窟式火薬庫 5棟

①営門跡



②半洞窟式火薬庫 15棟

至 JR 関ヶ原駅方面



②半洞窟式火薬庫



①関ヶ原分廠 営門と立哨台



関ヶ原鍾乳洞（右）に至る分岐
右に行くと本洞窟式火薬庫が5カ
所点する。



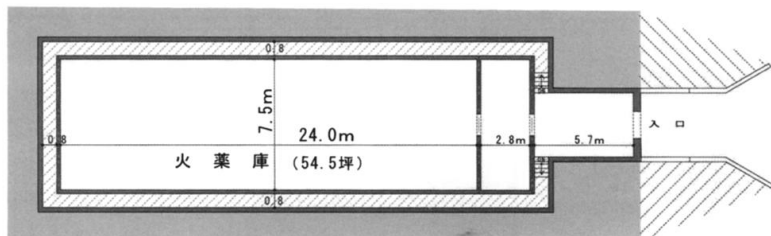
③本洞窟式火薬庫 5棟



鍾乳洞に近い一カ所に説明板が設置されている。
下図は「平和の願い 関ヶ原・玉の火薬庫」から

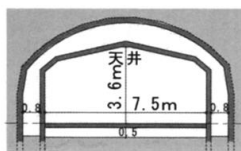


火薬庫内部のようす（左図の奥）



平面図

本洞窟式火薬庫
5棟



断面図



火薬庫附近にある立哨台

写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第8話

愛知航空機研究者・渡辺哲国

8. 胴体

1) 装備類や機構の調査と防蝕

1992年に入ると、ビルは課長に昇格し、新たに晴嵐プロジェクトにボブ・マククリーンが配属され、マットとボブの新コンビが結成された。胴体には未だ調査すべき箇所が多く残されており、格納用の折畳展張機構や操縦席、偵察席の装備、操縦装置など手探りの調査が続けられた。胴体の大部分はアルミ（ジュラルミン）で構成されているが、主翼取付部や射出滑走台車に搭載するための支持架など、強度を必要とする主要部位は鉄製のため、異質の金属の結合部に発生する特有な腐蝕・電蝕が多く発見された。これらの部位に対して、脱着可能な部位には異なる金属の間に塗料やワックスなどが塗布され、電蝕の防止が図られた。

計器、装備品類は欠品が多く、計器盤には計器の無い孔が目立った。欠品した計器の多くは、PEGFが保存する同じ型式の計器で補填されたが、航空時計と秒時計は最後まで入手できなかった。（航空時計については、セイコー時計博物館より写真と資料の提供があり、手先の器用なボブが複製品を作製し装着した。）

風防ガラスにはキズや変色が目立ったが、オリジナルを保存する観点から、バフ研磨による修整が行われた。また、風防枠の一部に腐蝕が認められたため、その部分のみ新しい部材と交換され、塗装のうえ識別表示が行われた。

この頃、タッチアップを施され、輝きを取り戻したアツタ発動機が防火壁前に戻され、修復の進み具合が判りはじめた。

同年11月18日、晴嵐との再会を楽しみにして病氣治療中であった晴嵐主務設計者・尾崎紀男氏は薬石効無く心不全にて死去された。（享年86才）

注1) 紀男：としお

注2) 航空時計と秒時計についてはその後日本からの寄贈があり装備された。

2) 息の長い地道な活動

1993年から95年にかけては、晴嵐修復以外の仕

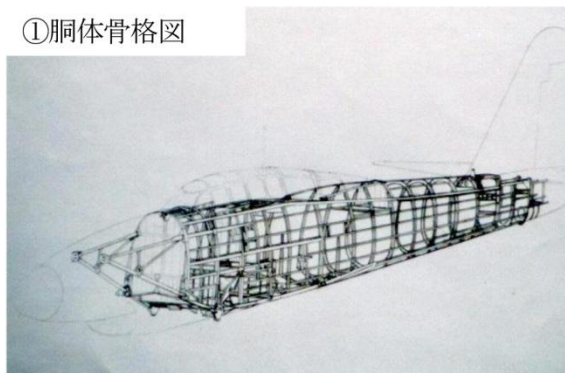
事も多く入り、マットとボブは多忙であった。前述の如く、NASMや他の博物館への航空機の移動、展示、吊下げなどである。吊下げ展示は航空機を観覧し易く、安全かつ長期に保存するという観点から、綿密な計画と計算が必要であり、ボブはこの分野のエキスパートであり出番が多くあった。近くでは、NASM (XP-59 エアラコメット) や国立郵便博物館（航空郵便機3機）での展示や吊上げ、遠くでは、ウィスコンシン州オシュコシュのEAA博物館（J2水上機）への遠征などである。また、ダレス国際空港内にSR-71などの保存棟建設やライト兄弟のビンフィーズ号の日本での展示支援も入っていた。こう云った仕事をこなしながら、マットとボブは黙々と晴嵐の修復を進めていた。

- ・部分毎に状況を観察し記録する
- ・取り外し可能箇所は取り外し、洗浄し、腐蝕防止処置を行う（化学処理、塗料、ワックス、クリアコートなど）
- ・必要に応じ、修復し、塗装し再組付けを行う
- ・手を加えた部分には識別表示を行う
- ・使えなかった部品、部材は全て保存する
- ・修復作業の詳細な記録をとる

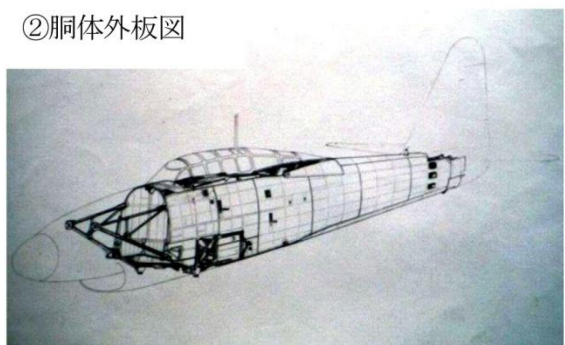
この作業を続けながら、一步一步前進させていた。

次号へつづく

①胴体骨格図



②胴体外板図

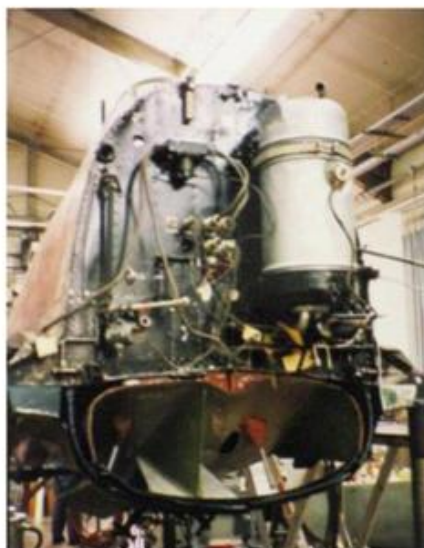




③隔壁部、潤滑油タンク



④冷却水&潤滑油冷却空気取入口



⑤冷却水&潤滑油冷却空気ダクト



⑥冷却水&潤滑油冷却空気ダクト



⑦冷却水ラジエター



⑧アツタ 32 発動機の搭載された胴体



⑩国立郵便博物館での航空郵便機吊下げ展示



⑨晴嵐設計主任・尾崎紀男技師

ピースフェスティバル in 瀬戸 戦争体験を語り継ぐ会

いずれも 14時～16時

- | | | | |
|----------|--|--------------|--------------|
| 5月27日(土) | 「引き揚げのとき、私は4才」 | 堀千代子さん | 文化センター12 会議室 |
| 6月24日(土) | DVD「主戦場」 | 慰安婦問題を考える会 | 文化センター22 会議室 |
| 7月22日(土) | 「瀬戸市顕霊誌(1995 瀬戸市遺族会連合発行)
にみる戦没者 1175名の記録」 | 保存する会 寺脇 | 文化センター22 会議室 |
| 8月12日(土) | 「沖縄の今」 | 山田秀子さん 新婦人の会 | パーティセと大会議室 |

あいち平和のための戦争展2023

8月10日(木)～13日(日)
市民ギャラリー矢田

2023 ピースステージ

8/10(木) <市民ギャラリー第4 展示室>

- 11:30～12:30 平和遺族会
13:00～14:00 トークセッション「九条のころと「戦争と平和」(日本ユーラシア協会愛知県連合会)
14:30～15:30 「戦争に反対したお坊さん」 真宗大谷派圓光寺住職 大東仁さん
16:00～17:00 「南京大虐殺」(ノーモア南京名古屋の会)

8/11(金) <東文化小劇場>

- 10:30～11:30 「蘇る空襲で燃える前の名古屋の姿と名古屋空襲」(名古屋空襲研究会)
12:00～13:00 「今だから語りた」女性と戦争」(愛知日本軍「慰安婦」問題解決をすすめる会、新婦人愛知県本部)
13:30～14:30 映画「おきなわ再び戦場に(仮)」(あいち沖縄会議)
15:00～17:00 「中国の平和外交攻勢は台湾にまで及ぶのか～ウクライナ問題と台湾問題」
(日中友好協会愛知県連合会)

8/12(土) <東文化小劇場>

- 10:30～11:50 「豊川海軍工廠供養塔と高校生たち(仮)」(中高生向け戦争展をめざす懇談会)
12:20～14:20 講演「沖縄からみたウクライナ」講師:北上田源さん(琉球大学) 実行委員会企画
14:50～16:50 講演「関東大震災100年～朝鮮人虐殺の真相(仮)」(不戦へのネットワーク)

8/13(日) <東文化小劇場>

- 11:00～12:30 「被爆体験」(愛友会)
13:30～15:30 講演 講師:半田滋さん(ジャーナリスト) 元東京新聞
(アジア太平洋戦争を忘れない実行委員会)

第32回保存する会総会

8月6日(日) 13:30～

水野地域交流センター(旧 水野公民館)
総会記念講演会

14:00～16:00

「大切な人との縁を結んだ戦争遺跡たち」

講師 戦争軌跡研究会

圓角成生さん

編集後記

5月6日名古屋市東部医療センターで東邦高校生徒会、金城学院高校生徒代表、全国戦災障害者連絡会有志が主催する「名古屋空襲祈りの日(仮称)」に提案する市民集会に参加しました。東邦高校生徒会で中心になって活動されたOBの「活動が形骸化しないように、みんなで集まってきちんと考えていくことが大事」という言葉が印象的でした。

2023年5月9日(T)